

「特集」

心不全療養者を看る 目線と思考と実践

「いつもと違う?」緊急度判断からACPまで

高齢心不全療養者の安定した生活を維持するには、

早期からの的確な看護アセスメントと関わりが欠かせません。

心不全ならではの「病態変化と自覚症状を結び付ける支援」が必須であり、

「いつもと違う」様子から緊急度を判断することも求められます。

本特集では、経験豊富な訪問看護師が

注目したところ、思考回路、そして実践を事例とともに紹介。

「何を見て、何を考え、どう看護しているのか」に迫ります。

また慢性看護の基本に立ち返り、ACPについても考えてみます。

「企画協力・執筆」

大牛晴代 ● 訪問看護ステーションプレックス管理者／訪問看護認定看護師
多留ちえみ ● 一般社団法人生活者支援ネットTARCの代表／保健学博士

